



日野江城跡

原城跡

## なぜ、日野江城跡と原城跡が世界遺産なのか？

### 明日の世界遺産 THE TOMORROW'S WORLD HERITAGE

CHAPTER.28

世界遺産に登録されるためには、いつの時代でも世界中の誰が見ても素晴らしい価値がなければなりません。その上で、登録のための基準を満たし、さらには、法律などで保護されていない必要があります。

皆さんの中には「日野江城跡がどうして世界遺産？」、「原城跡がどうして世界遺産？」といった疑問を持っている人もいるようですが、この2つの史跡が、なぜ登録されようとしているのか。どのようなところが世界的な価値があるのかという点について、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」(以下、「長崎の教会群」)の価値も含めて解説します。

#### 「長崎の教会群」の価値

「長崎の教会群」は、キリスト教の伝来とその広がり、そして日本でのように浸透していったのかという450年以上にわたる歴史の過程を示す遺産です。この450年以上にわたる年月の中で、長崎地方のキリスト教の歴史は、「伝来と繁栄」、「禁教と弾圧」、「禁教下の潜伏」、そして「奇跡の復活と教会堂の建築」という、決して平たんなものではなく、劇的な歴史を繰り返してきました。この歴史こそが、日本国内だけで

はなく、世界的にも類を見ない独自の価値があるということで、関連する史跡、聖地、集落、そして教会群が世界遺産の候補(構成資産)となっています。

「長崎の教会群」の構成資産は、長崎県と熊本県の6市2町に分布する13の史跡や教会などで構成されていますが、この13資産の全てが「長崎の教会群」の価値や450年以上にわたる一連の歴史を証明するため必要で、1つも欠くことはできません。

#### 「日野江城跡」の価値

日野江城跡は、キリシタン大名有馬氏の城で、キリスト教の伝播と繁栄を示す遺産としての価値を評価され、「長崎の教会群」の構成資産になっています。

16世紀後半の南島原地域では、1563年にルイス・デ・アルメイダによってキリスト教の布教が開始されました。1579年、巡察師ヴァリニャーノが口之津に來航すると、領主の有馬晴信は洗礼を受けてキリシタン大名となり、布教を許可しました。また晴信は、領地の一部をイエズス会に寄付するなど、積極的にキリスト教を受け入れたことで、南



巡察師ヴァリニャーノ



キリシタン大名有馬晴信



島原地域ではキリスト教が急速に広まりました。こうした状況の中、南島原市内には日本で初めての本格的な修道者育成のための初等教育機関セミナリヨが作られました。



天正遣欧少年使節

1582年、有馬のセミナリヨで学んだ4人の少年が、日本最初のヨーロッパ使節団、天正遣欧使節として海を渡りました。約8年半の旅を終えて帰国した使節は、ヨーロッパから西洋美術の技法や印刷技術などをもたらし、当時の南島原地域は、西洋文化の発信地となり、さながらキリシタン王国のように繁栄しました。キリスト教文化や西洋文化が繁栄した証拠として南島原市内に多く現存するのが西洋式のキリシタン墓碑です。全国で確認されている約1



吉利支丹墓碑

90基のキリシタン墓碑のうち、実に110基が市内で確認されています。

このように16世紀後半に、この地にキリスト教が伝わり、キリスト教や西洋文化が繁栄した拠点となったのが晴信の居城であった日野江城だったのです。

なお、日野江城跡は、キリスト教の「伝来と繁栄」を示す唯一の構成資産となっており、「長崎の教会群」の価値を語る上で欠かせないものとなっています。

#### 「原城跡」の価値

原城も、日野江城と同じく有馬氏が築いた城で、キリスト教が禁止された初期の信仰継承と国家的弾圧を示す遺跡としての価値を評価されて「長崎の教会群」の構成資産となっています。

1612年、晴信が亡くなる



島原・天草一揆

と南島原地域のキリシタンは苦しい時代を迎えます。後を継いだ有馬直純は、キリシタン弾圧を始めました。しかし、日野江城の時代、キリシタン王国と言えるような繁栄を示した南島原地域では、村の有力者を中心とした強力な信徒組織「コンフリリア」があり、キリシタンを滅ぼすことは思うようには進みませんでした。その後、直純が配置換えとなり、南島原地域は松倉氏が治めましたが、松倉氏もキリスト教を捨てるように迫り、拷問や弾圧を繰り返しました。

城は徹底的に破壊され、多くの遺体とともに埋めつくされました。

このように、禁教令が出された後、弾圧を受けながらも信仰を継承した人がいたことを示す遺跡であること。「島原・天草一揆」によって、江戸幕府を動かし鎖国を完成させるきっかけとなる出来事が起こった遺跡であるのが原城跡なのです。



日本で最初の活版印刷機(復刻版)



セビリアの聖母(復刻版)

1637年、凶作や悪政に苦しむ島原、天草の人たちはついに反乱を起こしました。これが「島原・天草一揆」です。約3万7千人のキリシタンを中心とした人々が原城に立てこもり、約12万人の幕府軍と戦いました。戦った人たちの多くは殺害され一揆は終息しました。一揆後、原

原城跡は、キリスト教の「禁教と弾圧」を示す唯一の歴史遺産となっており、「長崎の教会群」の価値を語る上で欠かせないものとなっています。

※「長崎の教会群」に係るコンセプトや価値については、現時点のもので、今後、変更となる可能性があります。



うちのごはんはお母さんが心をこめて作っているからおいしいよ、  
テーマ「家族といっしょの食事と想うこと」 南島原市立 堂山奇 小学校 5年 名刺 渡部 幹

うちのごはんは、いそがしい母さんが心をこめて作ってるよ  
テーマ「家族といっしょの食事と想うこと」 南島原市立 堂山奇 小学校 5年 名刺 本村 玉緒希

